



ももやま白菊保育園だより

令和3年10月号

秋の夜は月がとてもきれいに見えます。十五夜は終わりましたが、十三夜（10月18日）の月もじっくり見てみて下さい。十三夜は「栗名月」「豆名月」とも言われています。保育の中では、夕方にうっすらでてきたお月様を、子どもたちが窓越しに見つけてくれたり、お月様の絵本を子どもたちと何度も読みました。ウサギやたぬき、オバケも出てきたりして、みんなで笑ったり、絵を描いたり、お歌も歌いました。

どのクラスも運動会のおけいこを少しずつ重ねています。小さいクラスでは、保育者と果物を入れ合ったり、友達と手を繋いで歩いたり、大きいクラスでは「できない」と思ったことにも日々粘り強くチャレンジしたり、一人一人の力を合わせてこそ作り上げられる競技や演技に喜びを実感したりしています。おけいこの中では、発達段階に見合った運動機能を十分に発達させることはもとより、温かい人間関係「やり＝もらい関係」の培いがそこにはみられます。微笑みかけると微笑み返す。「ちょうだい」と手を差し出すと物を渡してくれる。保育者は上手くいかない時は援助し、何かをやり通せた時は賞賛し、「一人じゃないよ、いつも一緒だよ」そんな相互作用の中で、体も心も育まれていくのが運動会なのだを再確認しているところです。残念ながら、コロナ感染拡大予防対策として、「動画配信」の形で保護者の方には見ていただく形とさせていただきましたが、ぜひ一緒にご覧いただき、子ども達の頑張る姿、とびきりのかわいい笑顔に温かなお声をかけてあげて下さい。

食欲の秋、芸術の秋！保育園の畑で育てているサツマ芋や里芋も収穫の時期がきました。お芋ほりがとても楽しみです。また、読書の秋でもあります。外出があまりできない分、じっくり、ゆっくり、繰り返し絵本を読んであげたいと思っています。



10月のねらい

木の実や落ち葉など秋の自然物に触れる
みんなで踊ったり走ったりして
運動会を楽しむ

10月のうた

まつぼっくり 大きな栗の木の下で
きのこ 山の音楽家 バスごっこ
やきいも グーチャーパー

10月の予定

10月1日(金)2日(土) お泊り保育(ふじ)

1日(金) 身体測定

6日(水) お誕生日会

7日(木) 避難訓練



19日(火) ゆり組以上運動会

20日(水) 赤ちゃん、うめ組運動会

(子どものみにて実施、後日動画配信)

25日(月) キンダーブック持ち帰り

27日(水) 芋ほり遠足(さくら、ふじ組)

29日(金) 外靴持ち帰り お帳面記入

さくら・ふじ組体操教室

5日(火) 12日(火)

19日(火) 26日(火)



11月・12月の予定

11月10日(水)お誕生日会

12月2日(木)3日(金)作品展

8日(水)お誕生日会

28日(火), 1/4(火)希望保育

29日(水) -1/3(月)休園

— どうしてあんなにごっこ遊びが好きなのだろう —

無藤 隆白梅学園大学名誉教授(教育学)「子どもと保育」から

小さい子どもはごっこ遊びが大好きです。ままごとだったり、ヒーロー遊びだったり、毎日のように、いろいろなものになって遊んでいます。おそらく、まだ言葉を使って心の中で考え、想像することがうまくできなくて、その代わりに、実際に体を動かし、ものを使って、そのものになって楽しむからなのでしょう。

その意味で、大人になるとするような、空想やドラマ、小説を楽しむことの始まりです。まだ言葉だけでというわけにいかないのが、実際にやってみるのです。物事を認識するための手立てでもあり、何かをやるようになるための真似でもあるのでしょう。

大人や年長の子どもたちのすることを子どもはよく見えています。そして、それに近いことをやろうとします。ごっこ遊びは本物の活動の代理ですが、子どもにとっては「いつかはできること」と感じているので、少しでもあこがれに近づく試みでもあるのです。

子どもはそういう行動をイメージの空想で埋めています。だから、ヒーロー遊びは面白いのです。もちろん、実際に空を飛べるとは思わないし、本当にヒーローになっているとも思っていないでしょう。しかし、大人よりずっと、その空想と現実が地続きのようです。情感としては、一瞬でもそれになった気であるのでしょう。ですから、かなり雑な設定でもそうなったつもりで楽しめます。

「なったつもり」ということがいたるところで、様々なものと活動について行われることで、いわば、体ごと分かるということが可能となっているのでしょう。ごっこ遊びは、愛らしいということを超え、子どもがこの世界の諸々を体を使って深くわかっていく大事で不可欠な場となっているのです。